

北陸産地に暗雲が立ち込めている。大手SPAの店頭不振によって、同SPA向けの素材供給で減産が不可避なうえ、国内婦人衣料全般が引き続き不振なことも産地にとって痛手だ。好調だったユニフォームや中東民族衣装向けも更新需要の一服感が漂っており、「けん引するアイ

テムが無い(産元商社)。ただ、産地を支配するのは悲観論ばかりではない。新規事業創出に向けた各社の新たな動き、委託「辺倒から自販に向けた取り組み、水平、垂直の連携の進展」など、現存する産地企業の多くは前を向いている。産地の最新動向を追う。

織布

自販拡大が将来開く

合織織布最大手、丸井 59億円、ITTで44億円 円の目標達成は「頑張れ織物(石川県中能登町)」と想定する(各事業の合算は206億円)。

プは、2015年度から20年度までの6年間で15度、17年度、18、20年度の2つに分けた中期経営計画「革新200」に取り組んでいる。宮本社長は、前期(15年12月期)の業績が堅調だったことや、各事業ミッションが順調に進展していることなどから、20年度で売り上げ200億円という数値目標に対して「達成可能」と自信を示す。

15年12月期のグループ(丸井織物、宮米織物、良川サイジンの業績は、売上高が81億9000万円、前の期の80億500万円をわずかに上回り、増益も果たした。今期は産地全体で苦戦がささやかれるなか、「多品種体制など対応力を向上させてきた」ことから、売上高、利益ともに横ばいから微増を見込む。

革新2000は、200億円の企業への成長」を骨子としており、その内訳を「委託」で55億円、「自販」で48億円、「海外」で

は現在25%ほどだが、これを最低でも30%台に乗せたいと意欲を示す。また衣料分野ではスポーツとファッションの融合というトレンドが世界的に強まっていることを「当社に追い風」と受け止める。この流れに連動して今1月には、ウオーターシエット(WJ)織機48台を、新規導入したエアジエット(AJ)織機に切り替えた。これにより生産性が向上するうえ、合織から天然繊維への幅出しが進展。ファッション・スポーツ向けの商品開発を加速する。この入れ替えによって、同グループの量産向け織機体制は、WJ織機975台、AJ織機189台の計1164台になった。



自販拡大へ展示会に出展する丸井織物

暗雲の中、光明見いだせ!